

(仮称) 堺市上下水道ビジョン策定検討懇話会

令和 3 年 9 月 2 日
堺市上下水道局

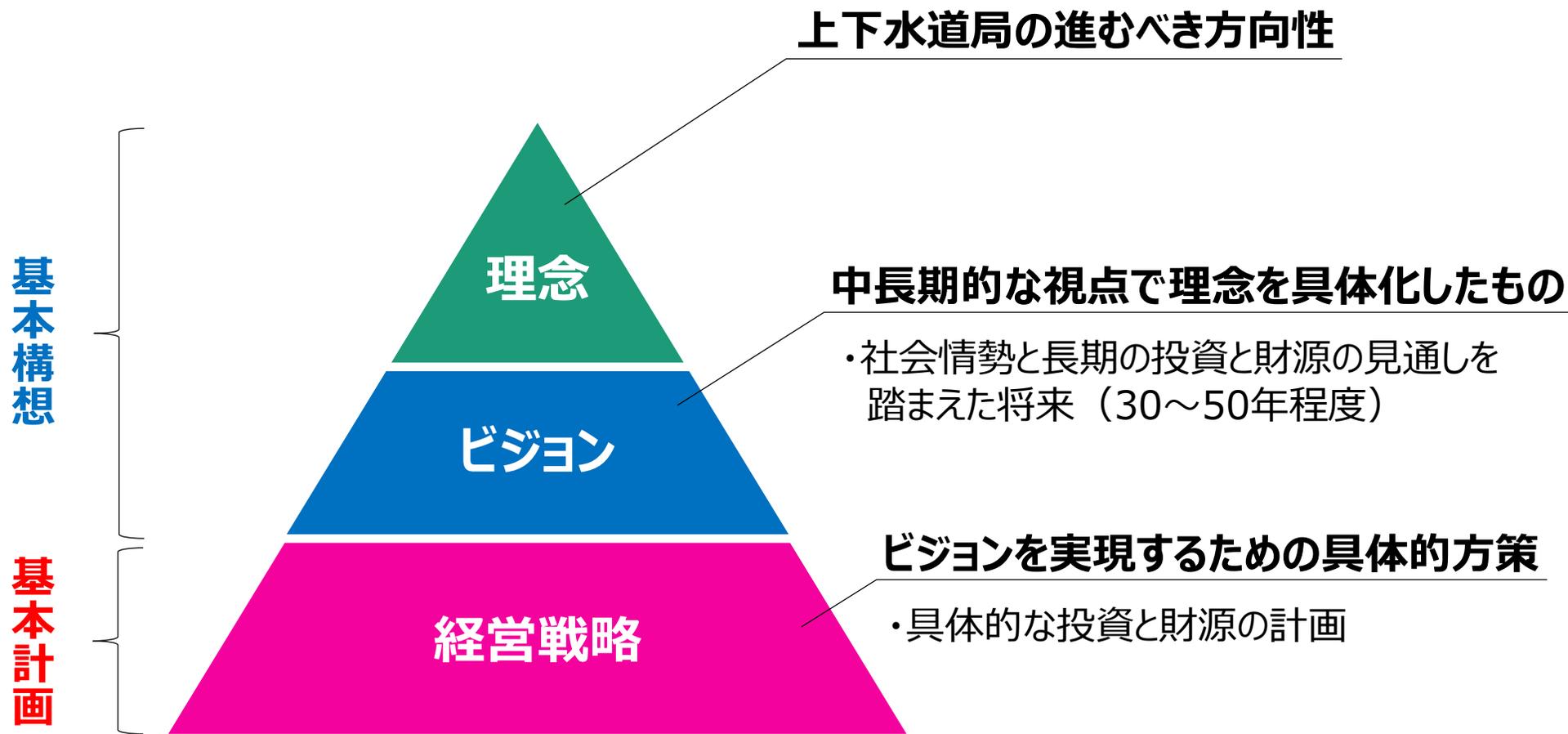
懇話会の趣旨

目次

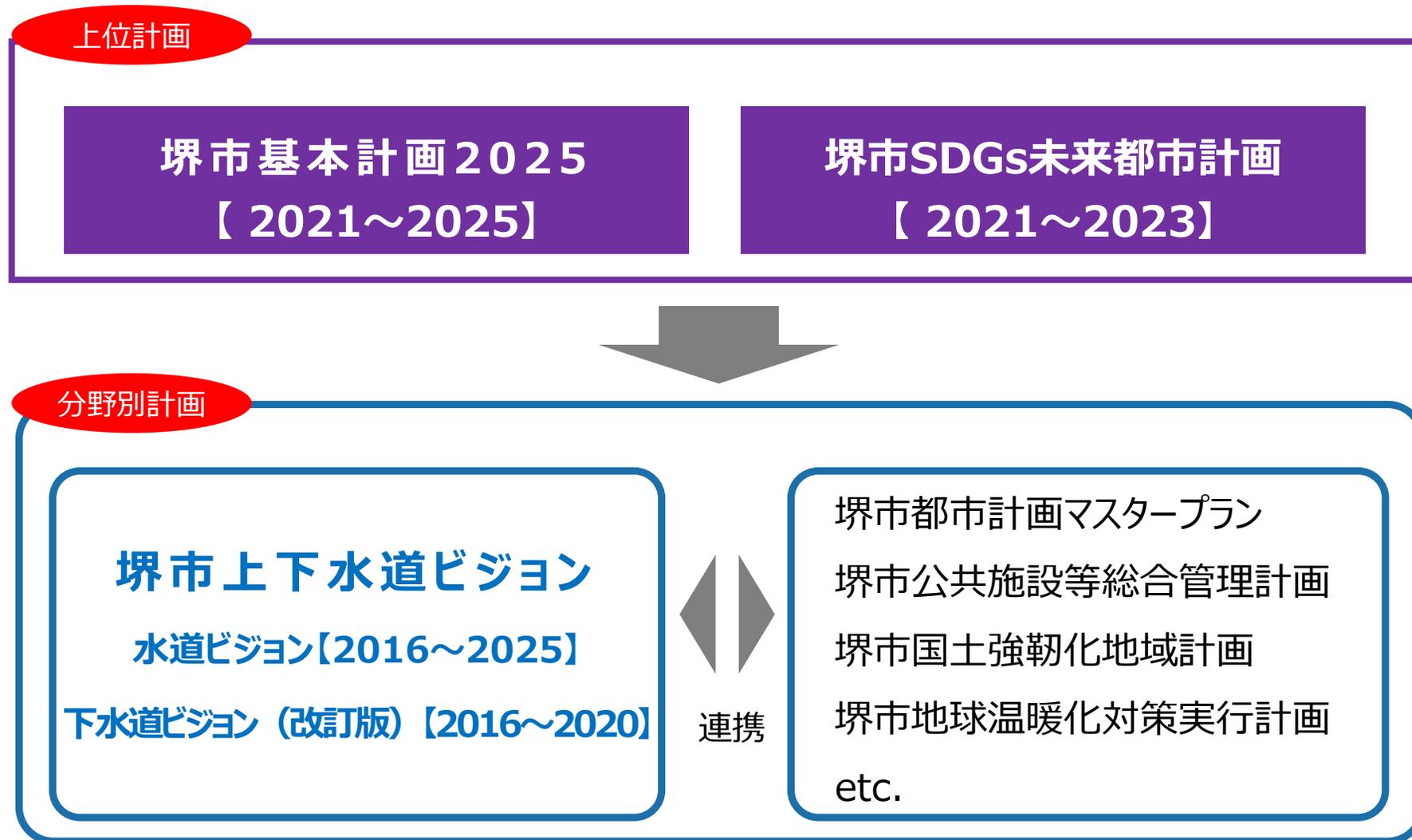
- 堺市上下水道ビジョンの構成・位置付け
- 懇話会の設置目的

堺市上下水道ビジョンの構成・位置付け

1 「新たなビジョン」の構成（予定）



2 堺市における位置付け



堺市基本計画2025

都市経営の基本となる計画。5年間に取り組むべき方向性を示している。

■ 基本姿勢（重点戦略の施策を推進するうえで必要となる基本姿勢）

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 持続可能性 – Sustainable – | 3 とともに創造 – Co-creative – |
| 2 多様性 – Diversity – | 4 Society5.0 – Smart – |

■ 重点戦略（今後5年間で重点的に取り組む5つの分野）

- 5 強くしなやかな都市基盤 – Resilient –

■ K P I（重要目業績達成指標：重点戦略に位置付けられる施策ごとに設定）

施策（1）自助・共助・公助のバランスのとれた防災・減災力の向上

▷KPI：水道管路の優先耐震化路線の耐震化率：78.3% → 100%（2025年度）

施策（2）都市インフラや公共施設の最適化・老朽化対策と交通ネットワークの構築

▷KPI：水道管路の耐震化率：27.6% → 33.8%（2025年度）

堺市SDGs未来都市計画（2021～2023）

SDGs未来都市として、2030年のあるべき姿に向けた3か年の取組を具体化した計画。



- 2030年のゴールの実現イメージ
将来にわたって、安全な飲料水と衛生環境が平常時、非常時ともに確保されている。
- KPI：水道管路の優先耐震化路線の耐震化率
2019年：78.3% → 2023年：93.6%
- 主な取組
 - ・応急給水に係るハード整備の推進
 - ・持続可能かつ安全安心な水道水の提供
 - ・開発途上国への上下水道に係る技術的知見の提供
 - ・下水の水質管理と下水道施設の維持・更新
 - ・民間事業者と連携した再生水の利活用
 - ・水と衛生に関わる取組の市民理解の促進
 - ・「自助」「共助」「公助」の役割分担に基づく衛生環境の確保促進



- 2030年のゴールの実現イメージ
再生可能エネルギーの導入や省エネルギーが最大限進むなど、都市の低炭素化が進展している。
- KPI：市域の再生可能エネルギー導入容量
2019年：165MW → 2023年：199MW
- 主な取組
 - ・省エネルギーの徹底など高効率なエネルギー利用の促進



- 2030年のゴールの実現イメージ
「自助」「共助」「公助」が補完しあう災害対策が進み、強靱な都市構造が形成され、防災力が高まっている。
- 主な取組
 - ・「自助」「共助」「公助」の役割分担に基づく災害対策の推進
 - ・ハザードマップの浸透、災害情報の発信強化
 - ・住宅、公共施設、都市インフラの災害対策の推進
 - ・公共施設や都市インフラの計画的な更新・補修の推進



- 2030年のゴールの実現イメージ
廃棄物が減少し、資源の有効利用が進んでいる。
- 主な取組
 - ・ごみの減量化、リサイクルの促進
 - ・大気、水質などの規制、監視
 - ・グリーン調達への推進



- 2030年のゴールの実現イメージ
すべての主体が環境問題を真剣に考え、生活や経営の中で対策を実践している。
- KPI：市域の温室効果ガス排出削減量（2013年度比）
2019年：14.1% → 2023年：15.9%
- 主な取組
 - ・省エネルギーの徹底やヒートアイランド対策の推進



- 2030年のゴールの実現イメージ
海洋汚染が減少し、大阪湾の豊かな資源や自然環境が守られている。
- 主な取組
 - ・水質の規制、監視
 - ・国、大阪府などと連携した大阪湾の海域環境改善

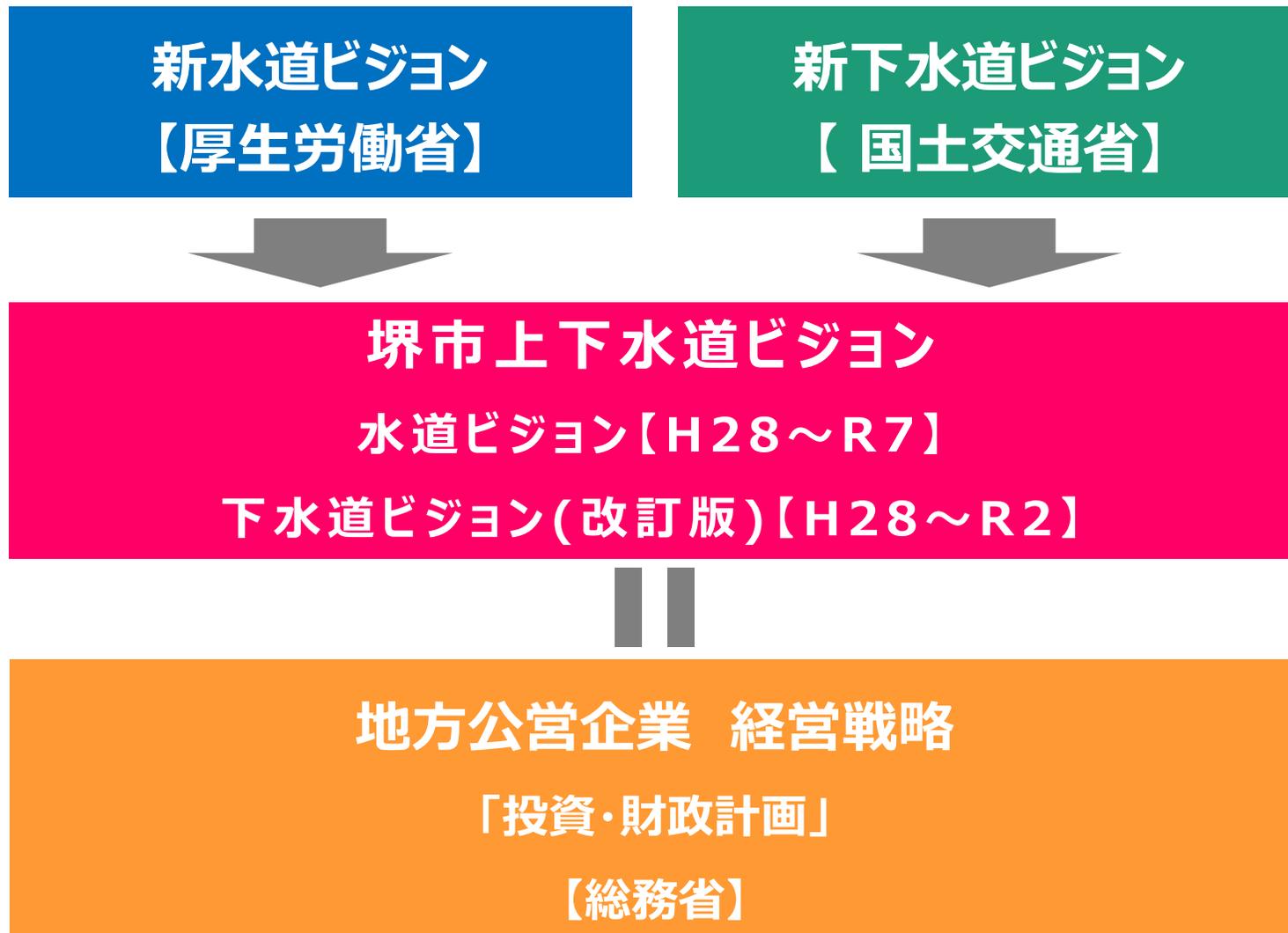


- 主な取組
 - ・情報公開の推進
 - ・広聴活動の推進
 - ・SDGs達成を念頭に置いた市政の推進



- 2030年のゴールの実現イメージ
SDGsの達成に向けて、国内外の多様なステークスホルダーとパートナーシップが構築されている。
- 主な取組
 - ・地域住民のつながり強化、多様な主体との協働の促進
 - ・府域一水道に向けた広域連携の推進

3 国の計画に対する位置付け



新水道ビジョン（平成25年3月策定）

厚生労働省で策定した水道に関する将来像を示した計画。取組の方向性や方策、関係者の役割分担を提示している。

水道の理想像

時代や環境の変化に対して的確に対応しつつ、水質基準に適合した水が、必要な量、いつでも、どこでも、誰でも、合理的な対価をもって、持続的に受け取ることが可能な水道

安全： 全ての国民が、いつでもどこでも、水をおいしく飲める水道

強靱： 自然災害等による被災を最小限にとどめ、被災した場合であっても、迅速に復旧できるしなやかな水道

持続： 給水人口や給水量が減少した状況においても、健全かつ安定的な事業運営が可能な水道

新下水道ビジョン（平成26年7月）

国土交通省で策定した下水道に関する将来像を示した計画。将来像を達成するための中期的な目標と施策を提示している。

第一の長期ビジョン：「循環のみち下水道」の持続

第二の長期ビジョン：「循環のみち下水道」の進化

「循環のみち下水道」の持続

下水道のマネジメントを確立し、発展させ、サービスの安定性や効率性等、質的な向上を図り、地方公共団体が主体的に目標設定した機能やサービスの水準を「持続」させること。

「循環のみち下水道」の進化

地方公共団体が主体的に目標設定した機能やサービスの達成に向けて、人口減少や気候変動、ICT等の技術革新等を踏まえ、スマートに対応していくこと。

また、下水道のポテンシャルを活かしつつ、多様な主体との連携を通じ、能動的にその機能や役割を進化させ、社会への貢献を拡大させていくこと。

懇話会の設置目的

(仮称) 堺市上下水道ビジョン策定検討懇話会開催要綱

1 目 的

水道事業及び下水道事業の経営戦略として（仮称）堺市上下水道ビジョンを策定するに当たり、**有識者から意見を聴取するため**、（仮称）堺市上下水道ビジョン策定検討懇話会（以下「懇話会」という。）を開催する。

新たなビジョンの策定上のポイント

- ① 中長期的な視点で、水道・下水道事業の投資と財源の見通しを示し、最適な計画を検討
- ② ビジョンの計画期間内に収支ギャップが発生する状況に対し、運営の最適化などにより、経営の安定性を確保